

物流経営士55人認定

物流大学校修了式 「立派な花を」

研修センター
中部

積極的な提案、アピールを行い、職場では活発な議論を交わしてほしい」と述べた。

【愛知川山田梨津子】
中部トラック総合研修センター（高村博三理事長）は六日、物流大学校講座の修了式を開き、五十人を物流経営士として認定した。

また、白石省三（カリツシ）、兼元浩治（大野運送）、川面長司（カワチヨウ）、水野雅之（愛知県トラック協会）、藤田浩靖（愛知車両興業）、西出陽一（上田運輸）の六氏にも、成績優秀者として理事長賞が贈られた。全講座に出席した二十三人の皆勤者表彰も行った。

（東缶ロジテック）、中田純一（中田商事）、若林祥人（三重県トラック協会）の五氏が受賞。

今回から全ト協会会長賞を設け、小幡哲生氏（名古屋東部陸運）が受賞した。
高村理事長が「かつてない試練の時を迎えているが、物流経営士としての存在価値を高めるよう、学んだことを業務に反映し、企業発展に努めてほしい。知識と経験を基に立派な花を咲かせよう」と激励。



中運局の若林陽介・企画振興部長も「物流業界には環境・安全対策だけでなく、スピードやクオリティが求められる。荷主や消費者への成績優秀者として6人に理事長賞が贈られる

また、愛ト協の小笠原和俊会長が「講座はきょうで終わるが、これから本当の勉強が始まる。変化に対応できる会社を目指し、勉強を継続してほしい」と呼び掛けた。
修了者を代表して、兼元氏が「業界を支えているのは若い力。社会や業界を変えていくのもわれわれ。大いなる志を持ち、自らと会社が調和、発展、成長するためにまい進したい」と決意を表明した。